

令和2年8月号



一宮町の歴史特集
「一宮町ゆかりの人々②②」
芥川龍之介(1892~1927)

芥川龍之介は明治25年(1892)、現在の東京都中央区に生まれました。大正から昭和初期にかけて小説家として活躍し、『羅生門』『鼻』『藪の中』『地獄変』『蜘蛛の糸』など多くの代表作があります。

芥川は大正3年(1914)と大正5年(1916)の2度、一宮を訪れ、2度目の際に一宮館の離れに滞在しました。現在この建物は「芥川荘」と呼ばれ、国の登録有形文化財となっています。2度目の滞在の際にはここからのちに妻となる塚本文に求婚の手紙を送っていることから、写真のような「芥川龍之介愛の碑」が建てられています(昭和49年建立)。

芥川が一宮に来るきっかけは、一高(現在の東京大学教養学部等の前身)時代の一年先輩である堀内利器に誘われてのものといえます。利器は一宮藩士であった堀内家の出身です。利器の故郷であり、別荘地・避暑地として栄えていた一宮に、涼を求めて訪れた、

というところでしょうか。1度目の来訪は堀内と共に町家に滞在し、毎日海水浴に出かけたといえます。

2度目は友人で、のちに小説家・劇作家として活躍する久米正雄(1891~1952)とともに来訪、大正5年8月17日から9月2日まで、先述したように芥川荘に滞在しました。

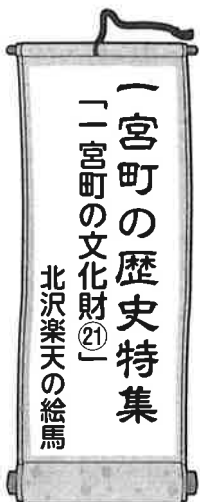
なお、現在、東京都北区では、田端にある芥川の旧居跡に「(仮称)芥川龍之介記念館」を建設する計画が進んでいます。計画が進むことで、資料が新発見され、研究が進むことが期待されます。



▲ 芥川龍之介愛の碑 (一宮海岸広場 船頭給 2512-81)

【問合せ】 教育課 ☎(42)1416
(教育委員会 江澤一樹)

令和2年9月号



一宮町の歴史特集
「一宮町の文化財②①」
北沢楽天の絵馬

北沢楽天(1876~1955)は、絵画記者として活躍し、日本初の職業漫画家といわれている人物です。詳細なプロフィール等については平成28年12月号の当コラムにて取り上げていますのでご覧ください。

今回紹介する絵馬は南宮神社に大正5年(1916)に奉納された絵馬です。縦87センチ、横156センチの大きさで平成15年(2003)に町の指定文化財に指定されています。

楽天は現在の白山地域(白山11付近、現在は石碑が建っています)に別荘を有していました。大正5年7月30日、折から続いた大雨の影響で一宮川の宮原付近の堤防が決壊、周辺の耕地はあらわれ、家2軒が流され、家3軒が傾きました。幸い人的被害等はありませんでした(宮原の大水害)。楽天の別荘も1階部分は水没し、楽天の家族は2階に避難したといえます。周辺の人々は船で南宮神社に避難しました。

この絵馬はその際に流された北沢邸の門扉の中で残った1枚に描かれています。

「神威顯現」と題され、水魔克服の鎮守の神が描かれています。絵馬には楽天の「祈り」が込められているのです。

近年は日本各地で自然災害が多発しています。昨年は一宮川上流での水害も発生しました。この絵馬は宮原堤防付近にある堤防復旧の記念碑(楽天別荘跡地石碑に隣接)とともに、宮原の大水害を今に伝える、貴重な文化財となっています。



▲ 南宮神社の楽天の絵馬 (通常非公開)

【問合せ】 教育課 ☎(42)1416
(教育委員会 江澤一樹)